

特別支援学校(知的障害)と中学校との「交流及び共同学習」

<実践の概要>

学 年	特別支援学校	中学校
	中学部3年	1回目:3年(通常の学級) 2回目:全校(通常の学級・特別支援学級)
交流学习の時間	1 回目:13:30~14:20、2 回目:14:00~15:00	
教科・領域等	生活単元学習	特別活動
実 施 時 期	1回目:7月中旬、2回目:9月中旬	
単元／題材名 1 回目:「学年レクリエーション」 2 回目:「地域の踊りの全校練習」		
主 な 活 動 内 容		
1 回目:学年レクリエーション		2 回目:踊りの練習への参加
・手をつないで行う知恵の輪 ・玉入れ ・ネプリーグ形式のクイズ		・学校近隣の公園に学校から一緒に移動 ・地域のまつりで披露する踊りの練習に参加 ※週末に開催される地域の祭りに受入校が全員参加することになっており、この日の踊りの練習も全校で行った。

<実践の成果と課題>

<効果的な取組・実践エピソード等>

<成果>

- ・直接交流 1 回目、受入校では、本校から配付していた本人の自己紹介カードの「好きなこと」の内容を生かし、交流する学級の生徒たちが、レクリエーションの活動を考えた。本人は活動後に「楽しかった」「また行きたい」と感想を話していた。
- ・直接交流 2 回目は、地域の祭りで披露する踊りの全校練習の日に設定した。同学年の最後尾に入り、同級生から言葉を掛けられながら、練習に参加した。
- ・本人は年度末に 1 年間を振り返って、楽しかったことベストスリーに「居住地校学習」を挙げていた。

<課題>

- ・交流 2 回目は、踊りの練習に事前の練習もなく参加した形だった。交流の事前に祭りで使用するうちわを制作したり、踊りの一部分でも練習をしたりする機会を設けていれば、本人も一層主体的に参加できたのではないと思われる。

- ・地域の祭りで披露する踊りの練習に参加した 2 回目の交流の際、相手校の校長先生から、「祭り当日も一緒に参加したらいいですよ」と声を掛けられたこともあり、本人は、当日保護者と一緒に祭りに足を運んだ。会場では、中学校の教師や生徒から輪に入るように誘われ、本人は、相手校の生徒に混じって、地域の祭りで踊りを披露した。週明けの連絡帳には、「本人がとても楽しかったようで、また中学校に行きたいと話していた。」と書かれてあった。
- ・年度末に保護者は、これまでの取組を振り返り、「学校以外での地域のイベントやスーパーでの買い物で、交流した友達から声を掛けてくれることが増えました。何回かしか会っていないのに、本人を覚えていてくれて、本人も友達の顔を覚えていて親に知らせてきて、『やあ』と言える関係が素敵です」と取組の感想を記述していた。

※本事例の生徒は、小学部から支援学校に在籍しており、小学部在籍時から居住地校学習を通して地元の子供たちと関係性を育んできた経緯がある。